埋文よこはま18

財団法人　横浜市ふるさと歴史財団　埋蔵文化財センター　　平成20年９月30日発行

明らかになった縄文時代終末の集落
－華蔵台（けしょうだい）遺跡の調査成果－

◆華蔵台遺跡の調査

華蔵台遺跡は横浜市の北部、都筑区の港北ニュータウン地域内にありました。現在の地番では、荏田南５丁目付近にあたります。発掘調査は昭和48年から昭和50年までと、昭和53年から昭和54年までの、主に２回に分けて行われました。調査が開始された頃の港北ニュータウン地域には、農地と山林が広がる田園風景が展開していました。しかし、調査が終わった昭和54年頃には、ニュータウンの建設工事が進み、山野（やの）は造成地へと変貌（へんぼう）していました。それから30年が経過した本年、ようやく発掘調査報告書の刊行にこぎつけることができたのです。そして、報告書の刊行を記念して、この秋には、横浜市歴史博物館で、『縄文文化円熟― 華蔵台遺跡と後・晩期社会』が開催されることになりました。ここでは、そうした華蔵台遺跡の概略を紹介することにします。

後期後半の住居あと

◆華蔵台遺跡の時代

華蔵台遺跡は縄文時代の後半期、今から約4000年から2700年ほど前に営まれた集落跡です。華蔵台遺跡の経営が始まった4000年ほど前には、気候がやや寒冷化した状態が続いていました。縄文人が主食としていた木の実も、そうした気候の中ではあまり実をつけず、人々は厳しい生活を余儀なくされていたようです。その後、ようやく気候は温暖化の傾向に向かいますが、華蔵台遺跡での本格的な生活は、そうした気候が温暖化し始めた頃に開始されています。

気候が寒冷化していた頃は、大きな集落をつくることができず、人々は家族ごとに分散して暮らしていました。少ない人数で分散して生活することで、少ない食料資源を最大限に利用しようとしたのでしょう。

気候の温暖化と共に、こうした生活にも変化がもたらされます。それまで4メートル程度の大きさしかなかった住居は、次第に大形化してゆきます。住居の大形化は、住まう人数の増加を示していると考えて良いでしょう。そうした住居がひとつの居住地に集合して生活するようになってゆくのです。それまでは住居ごとに分かれて暮らしていたのですから、ムラの形が大きく変化し始めたことになります。

しかしその後、再び気候は寒冷化する方向に向かいました。加えて、富士山や箱根の火山活動も活発化していったようで、この頃に堆積した土には、火山が噴出（ふんしゅつ）した軽石などが多く含まれています。つまり、縄文人の生活には厳（きび）しい環境が再来した訳で、今から3500年ほど前からは、集落は再び小形化していき、その数も減少の一途（いっと）をたどります。そして、縄文時代の終末頃には、横浜だけでなく、神奈川県内全体でも、ムラの数は非常に少なくなってしまうのです。

◆華やかな精神文化

こうした苦しい生活の中で、精神文化は逆に発達してゆきました。まず、家の内部に石を敷く「敷石住居（しきいし）」が造られます。家の中に石を敷いたり、石で家の周囲を囲ったりする行為は、祭壇（さいだん）の拡大として理解されるものなのです。家の外でも同じよ

遺跡の場所

動物形土製品

うに、石を使って祭壇が築かれました。これは先祖を祀ったり、動物の再生を願ったりする儀礼に用いられました。

ただ、こうした石を使った儀礼の場は、石がムラの近くに豊富にある地域でこそ盛んに造られますが、横浜のように石の産地から遠い場所では、あまり見られません。しかし、石の使用は少なくても、同じような祭壇は造られていたと思われます。石が使われていないと、こうした施設は、調査では把握が難しいのです。

ひすい製の玉

こうした施設とは別に、儀礼に用いられた道具類は横浜でも多く出土します。華蔵台遺跡でも土偶や動物形土製品、あるいは石棒・石剣などといった遺物が多数出土しました。

儀礼道具の他にも、耳飾りをはじめとする装身具も多く出土しました。装身具は儀礼とは関係ないと思われるかも知れませんが、当時の人々は、魂が体から離れないようにする意味合いを装身具に持たせていたようなのです。特に、石で作られた勾玉のような玉類には、そうした意味が強くこめられたようです。つまり、縄文時代の終わり近くになって、装身具が多量に作られるようになる背景には、身を飾る意識はもちろんあるにしても、それと同時に、魂が体から抜け出ないようにする気持ち、つまり祈りの気持ちが強く働いていたことが考えられるのです。では、そうした縄文時代後半期のムラの様子とはどのようなものだったのでしょう。

◆明らかになったムラの構造

気候が温暖化して、ひとつのムラに人々が集まるように

土製の耳飾り

晩期の土器

なると、その内部も複雑なものになってゆきました。単純に住居が寄せ集まったムラではなく、その中に中心となる家が登場してくるのです。この家は他の家よりも高い場所に建てられ、規模が大きめである特徴があります。また、同じ個所で建て直しが繰り返され、その回数は10回以上にも及びます。近くには墓地が造られており、墓地と強い関連性を持っていたことも示されています。

同じ個所で建て直しが繰り返されるのは、その場所がムラの中で重要な位置であったことの証拠でしょう。そして墓地が近くに設けられるのは、この家の住人が、墓地に眠る先祖への祈り、祭りにあって、重要な役割を果たしていたことを意味します。先祖に対する祈りが重要視されたのは、先祖が集団のまとまりにとって、精神的な柱であったことを意味します。先祖が眠る墓地が形成され、それを管理する家がムラの中心となって、ムラ全体の構成が成立していたのです。そうしたムラの中核にあたる家に住んでいた人物は、ムラの「長」であると同時に、祭りなどの儀礼も執り行う、「司祭」のような人物だったのでしょう。

小児埋葬用の土器

こうしたムラの構造は、港北ニュータウン地域での調査活動によって、初めて具体的に捉えられたものです。それまで、縄文時代後期の集落の構造は良く分かっていませんでした。それを明らかとしたのは、華蔵台遺跡をはじめとする、港北ニュータウン地域での、遺跡群調査の成果だったのです。

催し物ご案内

○講座「横浜の考古学」

考古学から見た
原始・古代・中世の祭りと祈り

祭りと祈りは人間の生活と共にあります。人びとの生活そのものといっても過言ではないでしょう。今回の考古学講座では、縄文時代から中世にかけてのそれぞれの時代で、どのような祭りと祈りが行われたのかを考えます。

第１回　11 月７ 日　　縄文時代
石井　寛（埋蔵文化財センター）
第２回　11 月 14日　　弥生時代
安藤広道（慶應義塾大学）
第３回　11 月 21 日　　古墳時代
鈴木重信（埋蔵文化財センター）
第４回　11 月 28日　　中　世
坂上克弘（横浜市三殿台考古館）

◇日　　時　11 月７日～28 日、毎週金曜日連続４回
午後２時～３時 30 分
◇会　　場　横浜市歴史博物館　講堂
◇定　　員　150 人（４回参加できる方）
◇受 講 料　2,000 円
◇応　　募　往復はがきに、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、「横浜の考古学申込」と明記して下さい（ひとり一枚）。
◇締　　切　10 月 31 日(金)必着（応募多数の場合は抽選）
◇申込み・問 合 せ　（財）横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
〒224-0034　横浜市都筑区勝田町 760
TEL　593-2406　　FAX　593-2403

○遺跡展

平成２０年度横浜市指定・登録文化財展
横 浜 の 遺 跡 展

平成 20年度横浜市指定･登録文化財展とあわせて､港北ニュータウン地域で発見された北川貝塚を主として紹介します。会期中、中学生以上を対象に、研究講座やフロアレクチャーなども開催する予定です。

会　期　12 月 13 日（土）～平成 21 年 1 月 18 日（日）
会　場　横浜市歴史博物館　企画展示室「平成 20 年度横浜市指定・登録文化財展」と同時開催
観覧料　無料

○体験学習

楽しい勾玉づくりと拓本とり

古代の装飾品である勾玉を作ったり、土器の文様を写しとったりする体験学習です。今年度下半期は次の３回を予定しています。

日　　時　第５回　10 月 25 日（土）
第６回　12 月 20 日（土）
第７回　平成 21 年２月 28 日（土）
いずれも午前の部（９：30～12：00）
午後の部（13：30～16：00）
会　　場　埋蔵文化財センター
募集人数　各回 15 人
参加費用　400 円（材料費込み）
応　　募　往復はがきか FAX.に、住所、氏名、電話番号のほかに、希望日時、参加人数、この企画を何でご覧になったのかを明記して下さい。１枚（回）の申し込みで複数人の申し込みができます。当選発表は抽選のうえ通知します。
応募期間　開催日の前月 15日～開催月 15日(曜日不問・必着)

縄文文化円熟

華蔵台（けしょうだい）遺跡と後・晩期社会

本号でご紹介した華蔵台遺跡について、横浜市歴史博物館で特別展として出土品等の展示をおこないます。この特別展では、華蔵台遺跡を中心に、千葉県や埼玉県、さらには山梨県の遺跡・遺物を紹介し、当時の生活や精神文化を探ります。

◆展示◆

会　　期：10月4日（土）～11月24日（祝）
　　午前9時～午後5時
会　　場：横浜市歴史博物館　企画展示室
休 館 日：毎週月曜日（月曜日が国民の祝日にあたるときはその翌日）
観 覧 料：一般500円(700)円、高校生・大学生300円(400)円、小学生・中学生100円(150)円
　　（　）内は常設展共通券

◆講演会①◆『海辺の生活と精神文化』

○「東京湾の東と西～その生業と文化交流～」
　忍澤成視（市原市埋蔵文化財センター）
○「縄文後晩期の社会と文化」
　石井　寛（財団法人横浜市ふるさと歴史財団）
日　　時：10月26日（日）午後1時～4時
定　　員：170名
参 加 費：600円
申込締切：10月15日（水）必着
会　　場：横浜市歴史博物館　講堂

◆講演会②◆『縄文後晩期の社会と文化』

○「寺野東遺跡と環状盛土遺構」
　江原　英（栃木県教育委員会）
○「石を運ぶ・石で築く－中部地方の縄文時代後半期の集落と社会－」
　佐野　隆（北杜市教育委員会）
○「縄文時代後期の房総のムラと貝塚」
　菅谷通保（茂原市立美術館・博物館）
日　　時：11月16日（日）午後1時～4時30分
定　　員：170名
参 加 費：800円
申込締切：11月5日（水）必着
会　　場：横浜市歴史博物館　講堂

◆バスツアー②◆「華麗な耳飾りを訪ねて」

○群馬県の遺跡や資料館を巡ります。
開 催 日：11月6日（木）
参 加 費：4,000円
定　　員：40名
申込締切：バスツアー②　10月21日（火）必着

○講演会・バスツアーの参加には事前の申込みが必要です。往復はがきに①住所・②氏名・③年令・④電話番号・⑤参加希望の催し・⑥何をみて催しを知ったかを明記のうえ、〒224-0003　横浜市都筑区中川中央1-18-1「横浜市歴史博物館」までお送り下さい。はがき1枚につき1名。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

埋蔵文化財センターのご案内

出土品や整理作業のようすを見学できます（予約が必要です）。埋蔵文化財や歴史に関する質問も歓迎します。
受付：午前9時～午後5時。土・日・祝日休み。
交通：東横線「綱島駅」より東急バス1番乗り場「勝田折返所」行終点。田園都市線「江田駅」より東急バス「綱島駅」行「勝田」下車。

ホームページアドレス
http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/index.html

＊「埋文よこはま」は、横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

埋　文　よ　こ　は　ま　18

発　行　日　2008年9月30日
編集・発行　財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
〒224-0034　横浜市都筑区勝田町760
TEL 045-593-2406
FAX 045-593-2403